

松前町商工会経済レポート（令和2年度第4四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

1. 最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめどにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（1）愛媛県の経済概況

1 経済概況

新型コロナウイルス感染症の影響により、全体として弱い動きが続いている。 前回との比較 →

○個人消費 前回との比較 →
一部で弱い動きがみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。
【百貨店・スーパー販売額】 前年同月比5.5%減少、2か月連続で前年を下回る。
【専門量販店販売額】 ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店は4か月連続で前年を上回る。
【コンビニエンスストア販売額】 11か月連続で前年を下回る。
【新車販売台数】 普通乗用車は4か月連続で前年を上回り、軽乗用車は4か月ぶりに前年を下回る。

○住宅・公共工事
住宅着工は持ち直しつつある。 前回との比較 →
公共工事はやや弱い動きがみられる。 前回との比較 →
【新設住宅着工戸数】 前年同月比19.1%減少、5か月ぶりに前年を下回る。
【公共工事】 請負金額の前年同月比は8.3%増加、5か月ぶりに前年を上回る。

○生産活動 前回との比較 →
弱い動きが続いている。
【鉱工業生産指数】 前年同月比(原指数)11.6%低下、9か月連続で前年を下回る。
化学、窯業・土石製品等の業種で前年を上回る。
金属製品、輸送機械、食料品の業種で前年を下回る。

○雇用・所得
雇用情勢は、求人が求職を上回り、緩やかに持ち直しているものの、依然として厳しい状況にあり、今後も新型コロナウイルス感染症が雇用と与える影響に、より一層注意する必要がある。 前回との比較 →
雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。 前回との比較 →
【有効求人倍率】 1.23倍と3か月連続で前月を上回り、16か月連続で前年を下回る。
【正社員有効求人倍率】 1.05倍と、前年を下回る。
【現金給与総額】 名目では前年比2.9%増、2か月ぶりに前年を上回る。
実質でも3.5%増、2か月ぶりに前年を上回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和3年2月分）」より転載

<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/kennaikheizaijousienigatubun.pdf>（参照 2021-06-01）

(2) 地場産業の状況（令和2年10月～令和2年12月の状況）

業種	産業事情
一般機械	自動車関連は、需要が回復し、一定の操業度を維持しているが、世界的な半導体不足により、今後の需要は不透明。 産業機械は、中国や東南アジアからの受注が回復傾向にあり、一定の操業度を維持している。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要の減少が続いており、引き続き操業度を下げているが、一部で回復の兆しもみられる。 鉄構は、一定の操業度を維持しており、需要が停滞していた国内向けが回復傾向である。
陶磁器	陶磁器及び瓦は、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が減少し、操業度を下げている。
珍味品	珍味は、再度の緊急事態宣言等の影響で、飲食店向けや観光地の土産物向けの需要が再び減少している。
陸運関係	陸運関係では、燃料費が下がっているものの、需要が減少している。また、荷主企業の生産調整等により、荷動きが減少している。

(資料) 愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和3年2月分）」より抜粋して掲載

<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/kennaikeizaijousienigatubun.pdf>（参照 2021-06-01）

2. 中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

(1) 業種別業況判断D I と天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断D I 調査が実施されています。

D I とは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転）」の割合から「減少（低下、悪化）」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とD I 値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

<記号とD I 値の関係>

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	---	---

<業種別業況判断D I と天気図（2021年1-3月期）>

製造業	食料品  ▲31.6	繊維工業  ▲41.0	木材・木製品  ▲30.9	家具・装備品  ▲27.8	パルプ・紙・紙加工品  ▲9.9
	印刷  ▲42.8	化学  ▲6.6	窯業・土石製品  ▲16.5	鉄鋼・非鉄金属  ▲2.2	金属製品  ▲15.6
	機械器具  ▲19.3	電気・情報通信機械器具・電子部品  ▲17.7	輸送用機械器具  ▲10.2	その他の製造業  ▲21.6	
非製造業	建設業  ▲14.3	卸売業  ▲27.7	小売業  ▲35.4	宿泊業  ▲53.2	飲食業  ▲51.3
	対個人サービス業（生活関連）※1  ▲36.6	対個人サービス業（自動車整備その他）※2  ▲20.9	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3  ▲42.5	対事業所サービス業（専門技術その他）※4  ▲18.6	情報通信・広告業  ▲22.5

※1「対個人サービス業（生活関連）」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の8業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他）」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫）」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の5業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他）」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の5業種。

(資料) 中小企業庁「第163回中小企業景況調査（2021年1-3月期）」より松前町商工会作成

(2) 「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- ・ ワクチン接種が開始されたが、依然、首都圏周辺では感染者数の下げ止まり状態が続き、いつ次の感染拡大が起こるか不安です。資金繰りの方はやや回復傾向が見られるが、民間の受注量停滞は、まだまだ続きそうです。[建設業 青森]
- ・ ワクチン接種が始まり、今後さらにG o T o事業の再開が見込まれるなど明るい見通しもあるが、宴会等のスタイルや開催頻度及び人数が以前と大きく変わってしまい、その変化に順応できるのか不安要素も感じられる。[宿泊業 新潟]
- ・ コロナの影響により、会合や法事などの集まりが減少し単価の大きな仕事がなく、資金繰りがよくない。イベントの少ない時期と重なり、需要が伸びない。[飲食業 三重]
- ・ コロナの影響で成人式・卒業式等の行事が中止となり、着物のレンタルが今年はゼロとなった。今現在非対面型の遠隔サービスが求められているが、当店は業種の関係上そうもいかないのが課題となっている。[小売業 奈良]
- ・ コロナの影響が続いている為に、今後の事業を進めて行くのが難しい。リモートでは営業が出来ないので、出張販売等、早く対応出来る様になってもらいたい。このままの状態が続けば、非常に厳しい状況が続きそうだ。[卸売業 広島]
- ・ コロナ禍の影響による需要の落ち込みの反動で、1～3月期は近年にない受注が見込まれた。但し、原材料価格の急騰は原価率を押し上げ、直近の課題になっている。さらに、夏場以降の需要の見通しに不透明感が残る。[鉄鋼・非鉄金属 愛媛]
- ・ 業況は、復調の兆しが見えず、思いきった事業再構築が必要と思われる。労働市場は、冷えており県内の採用意欲も低下している。オンラインによるセミナーは、今後取り入れて教育研修事業に活路を見出したい。[情報通信・広告業 佐賀]

(資料) 中小企業庁「第163回中小企業景況調査(2021年1-3月期)」より抜粋

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：2020年度第4四半期（2021年1月～3月期）

調査対象企業：150企業 回答企業：150企業

（製造業：30社 建設業：20社 小売業：42社 サービス業：58社）

D I 方式

D I とは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とD I 値の関係

	快晴 ～30.1		晴 30.0 ～10.1		薄曇 10.0 ～▲10.0		曇 ▲10.1 ～▲30.0		雨 ▲30.1～
--	-------------	--	--------------------	--	----------------------	--	----------------------	--	-------------

1. 業況判断D I と天気図（2年間の推移）

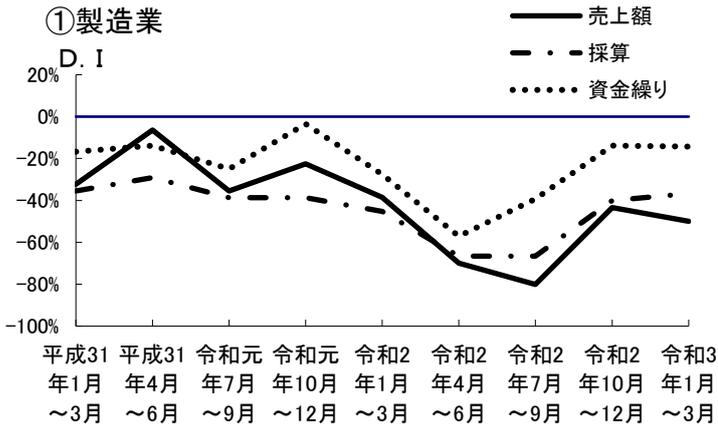
期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
	平成31年 1～3月期		▲ 36.7		20.0		▲ 47.5		▲ 28.8		▲ 23.3
平成31年 4～6月期		▲ 23.4		30.0		▲ 45.0		▲ 12.1		▲ 12.6	
令和元年 7～9月期		▲ 36.7		20.0		▲ 41.0		▲ 15.2		▲ 18.2	
令和元年 10～12月期		▲ 26.7		10.0		▲ 46.2		▲ 25.4		▲ 22.1	
令和2年 1～3月期		▲ 43.3		0.0		▲ 55.0		▲ 23.7		▲ 30.5	
令和2年 4～6月期		▲ 69.0		▲ 25.0		▲ 77.5		▲ 60.3		▲ 58.0	
令和2年 7～9月期		▲ 55.2		▲ 20.0		▲ 65.9		▲ 54.2		▲ 48.8	
令和2年 10～12月期		▲ 41.5		▲ 20.0		▲ 64.2		▲ 37.9		▲ 40.9	
令和3年 1～3月期		▲ 39.3		▲ 20.0		▲ 53.7		▲ 34.5		▲ 36.9	
来期見通し 4～6月期		▲ 10.7		▲ 40.0		▲ 41.4		▲ 19.0		▲ 27.8	

（注1）業況判断D I ポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

①製造業



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲43.4→▲49.9 ポイント)

採算 : やや好転 (▲40.0→▲36.7 ポイント)

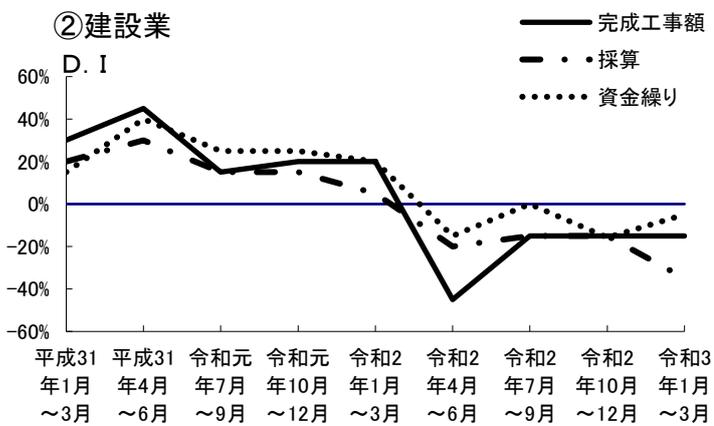
資金繰り : ほぼ横ばい (▲13.8→▲14.3 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (28.0%)

2位 : 従業員の確保難 (20.0%)

②建設業



<前期比>

完成工事額 : 横ばい (▲15.0→▲15.0 ポイント)

採算 : 悪化 (▲15.0→▲35.0 ポイント)

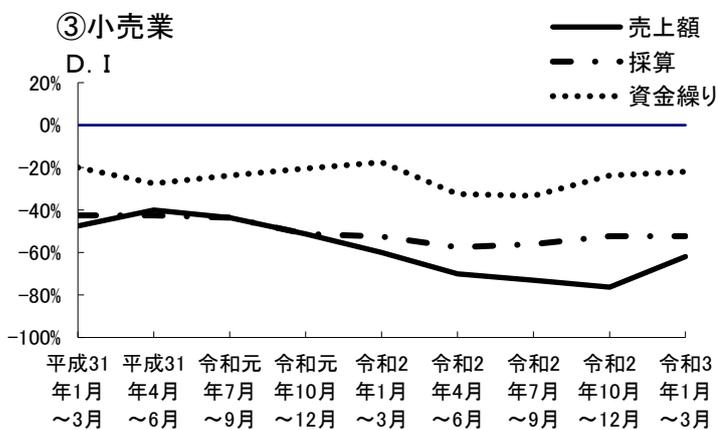
資金繰り : 好転 (▲15.8→▲5.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 官公需要の停滞 (26.7%)

2位 : 従業員の確保難、民間需要の停滞 (20.0%)

③小売業



<前期比>

売上額 : 好転 (▲76.3→▲61.9 ポイント)

採算 : 横ばい (▲52.3→▲52.3 ポイント)

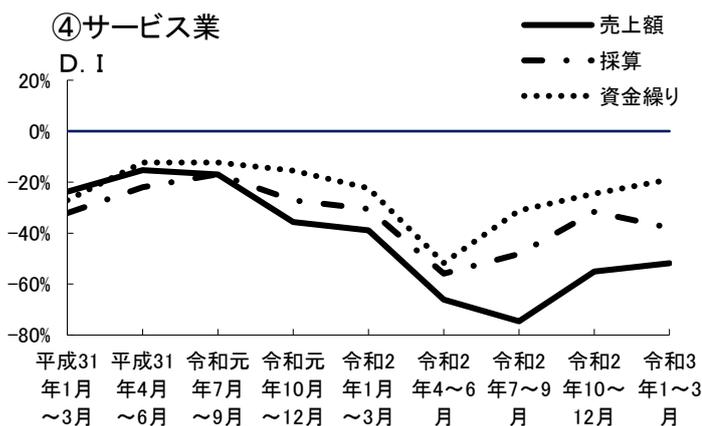
資金繰り : やや好転 (▲23.8→▲22.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 購買力の他地域への流出、需要の停滞 (20.0%)

2位 : 大型店・中型店の進出による競争の激化、消費者ニーズの変化 (10.0%)

④サービス業



<前期比>

売上額 : やや好転 (▲55.1→▲51.8 ポイント)

採算 : やや悪化 (▲31.6→▲37.9 ポイント)

資金繰り : やや好転 (▲24.5→▲19.0 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (28.6%)

2位 : 利用者ニーズの変化 (16.3%)